



# 鳥取県教育センターだより

Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321（代表）【FAX】0857-28-8513

【URL】<http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/> 【e-mail】[kyoikucenter@pref.tottori.lg.jp](mailto:kyoikucenter@pref.tottori.lg.jp)

## 研修を通じたOJTの促進に取り組みます！！

シリーズ

OJT促進に向けて①

鳥取県教育センターでは、本年度も「OJTの促進と学校教育支援の充実」を基本方針の一つとして、重点的に取り組んでいきます。本だよりの中でも、昨年度同様にシリーズとして、教職員のOJTに関する意識の醸成や校内体制の整備に役立つ情報を提供していきます。今年度の第1回目は、今年から新設された「『16年目研修』とOJTの推進」について紹介します。

5月1日（火）倉吉体育文化会館にて、16年目研修（研修番号1）を開催しました。この16年目研修は、平成28年11月の教育公務員特例法等の一部改正を受け、鳥取県教育委員会が策定した「教員としての資質の向上に関する指標」及び指標を踏まえた「研修計画」における新たな研修体系のもと、新設された研修です。「ミドルリーダーとしての実践力の充実」をねらいとし、「学校組織マネジメント能力の習得」と「リーダーシップの発揮」に重点をおいた研修を実施します。内容としては、3回の集合研修と年間を通じた課題研究を行います。従来の基本研修以上に「往還型」を意識して計画しており、集合研修で学んだことについて、自校の管理職等から指導助言を受けた上で学校運営参画に係る課題研究のテーマを設定します。課題研究を実践するにあたっては、学校全体や学年団、分掌等の取組に反映させながら、自校の教育課題の解決につながる取組になることをねらっています。このねらいを達成するためには、対象者が上司や同僚に意図的・計画的・継続的に働きかけていくことはもちろん、全教職員の理解・協力が必要となります。16年目研修の取組が、各校でのOJTの一助となることを願っています。



▲16年目研修（H30.5.1）開講式

## 学習でのICT活用がますます重要になっています！！

シリーズ

ICT活用に向けて①

昨年告示された新学習指導要領には、すべての学習の基盤として「情報活用能力」が明記され、教科等横断的に育成することが必要であるとされています。つまり、すべての教科等において「情報活用能力」を育成する学習場面を見だし、それぞれの教科の特質に応じた形の学習活動を充実することが必要です。

以下の3つのポイントで育成していきます。

- ①コンピュータ等の環境を整え、これらを活用した学習活動の充実を図る  
→校内のICT環境の整備に努め、児童生徒や教師がいつでも使えるようにしておくことが大切
- ②教材・教具の適切な活用を図る  
→各教科等の指導の場面では、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ることが大切
- ③情報モラル教育を行う  
→情報モラルに関する指導は、道徳科や特別活動のみで実施するものではなく、各教科等との連携や、さらに生徒指導との連携も図りながら実施することが重要

ICTを活用した授業は、子どもたちへの学習の興味関心を高め、分かりやすい授業や子どもたちの主体的な学びを実現し、確かな学力の育成につながります。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善においても極めて有効なものとなります。校内全体でICT活用を進めましょう。

## 「スーパーはくと」における人材育成と世代交代

所長 小林 傳

その日は、午後から倉吉で県PTA協議会との教育懇談会が予定されていた。気温36℃を超える猛暑日となる見通しであったこともあり、少しでも早く・涼しく移動したいという思いで、私は、郡家駅から特急で倉吉に向かうことにした。乗車した「スーパーはくと」は、土曜日の昼前ということもあり、自由席もある程度の乗客がいた。先頭車両の1号車に入った私は、運転席全体がガラス張りで見える最前列に運よく空席を見つけた。

シートに座って車窓に流れる郡家地内の田園風景をしばらく眺めてから、私は運転室内に目をやった。運転室内には、50歳前後と思われる乗務員らしき男性が運転席の後ろに立っており、いわゆる自動車という助手席には、ヘルメットをかぶった保守点検作業員風の比較的若い男性が座っているのが見える。最後に運転席に目を移した時、私は、一瞬自分の目を疑った。私が乗っているこの「スーパーはくと」を運転しているのは、ショートカットの髪型に女性用の制帽を被った、どう見ても20歳代の女の子(女性)ではないか。しばらくして私は、やっと運転席内の状況を理解することができた。運転席の後ろに立っている男性は、指導教官的な立場のベテランで、若手の女性運転手の列車運転を後ろで指導しながら見守っているのだ。

「スーパーはくと」は、鳥取駅に到着した。運転室の外の表示が丸見えだったので、列車が予定した位置ピッタリに停止したことは、素人の私にも確認することができた。鳥取駅到着後、指導教官らしき乗務員と保守点検作業員風の男性は、運転室からプラットフォームに降りた。若い女性運転手は、にこやかな笑顔で丁寧にお辞儀をして二人を見送った後、運転室のドアを施錠し、自分の運転席にもどった。

私は、この後の鳥取駅から倉吉駅までの間の女性運転手の様子が気になって仕方なくなった。運転席にもどった彼女は、肩の力を抜くように肩を2・3回ほど上下させた後、背筋を伸ばして正面を向き、前方の信号を白い手袋をした手でしっかりと指さし確認を行った後、列車を発車させた。プラットフォームで見送る二人の男性には、「ありがとうございます。」とにこやかに会釈をして別れを告げた。その後、彼女の後ろ姿を通して倉吉駅までの運転の様子を私は観察した。

彼女の様子から感じたことは、「緊張感」「使命感」「プライド」「誠実さ」などの言葉で表される、私たちが若い世代に求めている価値観がその姿と行動になって目の前にあるということだった。中でも特に私の心を動かしたのは、百人以上の乗客の命を預かる列車の運転業務に対して、プロとしての自覚と魂をもちながら胸を張って堂々と前方を見ている、その「若々しくも凛々しい彼女の姿勢」であった。彼女は、一人きりとなった運転室内で、列車がそのポイントにさしかかる度に指さしによる確認を何度も繰り返し、また、すれ違い待ちの列車の運転手にしっかりと敬礼をし、そして、倉吉駅までの運行を定刻通り果たした。倉吉駅ホームの予定位置に列車をしっかりと停止させ、いくつかの計器の操作を行った後、彼女は、再び肩を2・3回ほど上下させた。一連の彼女の姿と行動を見ていた私は、何だかとても清々しい、さわやかな感動とともに「スーパーはくと」を降りた。

たった40分程度の「スーパーはくと」の乗車時間であったが、初めて目にした今回の光景に、私は、人材育成と世代交代に関わる貴重な場面を見たような気がした。そして、その中には、次に挙げるようないくつかのポイントがあったように感じた。

- ① 指導者が、若手を指導する際には、あえて若手の後ろに立って若手の目線の先を意識しながら、必要な時に必要なアドバイスを行う。
- ② 指導者は、頃合いを見定めたとえで、時に若手を信頼して一人でやらせる。
- ③ 若手は、自分の業務にプロとしての自覚と魂(志や使命感)をもって、胸をはって前を見なければならぬ。
- ④ 若手は、先輩の教えに謙虚に耳を傾け、その指導に対して感謝の気持ちを忘れてはならない。
- ⑤ 若手は、それまでの教えを胸に、自信を持って行動しなければならない。

仕事の継承は、スキルだけではなく、「緊張感」「使命感」「プライド」「誠実さ」「謙虚さ」「感謝」など、精神的な部分はその根幹となっているのだ。